［特集］先輩の背中。

社会福祉法人そよかぜの機関紙
第136号
発行2019.1.20
年4回発行

そよかぜだより

社会福祉法人そよかぜ
羽村市栄町3-3-1
☎042-578-0855
fax.042-578-0466

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。本年も変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、念願でありましたスマイル工房の新施設が完成し、10月1日から新しい施設で開所することができました。ご指導ご協力いただきました羽村市当局をはじめ関係者、市民の皆様には心より御礼を申し上げる次第です。

昨年は西日本の記録的な豪雨災害をはじめ、北海道の地震や日本各地に猛烈な台風などの自然災害が猛威をふるい、道路、鉄道、空港、電力など甚大な影響を受け、数多くの方々が被災されました。災害地域の一日も早い復興と、犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈り申上げます。ここ数年来における自然災害のリスクは数え切れません。こうした頻発する災害に立ち向かう知恵を過去の歴史から学び、どのように未来に生かし対処するかを改めて問い直す必要があるようです。

平成31年の新春を迎えて

野崎功市
社会福祉法人そよかぜ理事長

さて、社会福祉法人そよかぜの近況ですが、ひばり園では一般企業への就職を目指す就労移行支援事業と、企業で働き続けられるよう支援する定着支援事業、福祉的就労に取り組んでいる就労継続支援B型事業やリサイクルショップ事業など、市民や企業のご支援を頂きながら順調に事業が進めることができております。前述のスマイル工房につきましても、新施設の厨房等の設備が充実したことから、今年は、主力のパン・クッキー製品の質と味わいをさらに高め、購買意欲の湧く商品開発と利用者工賃の向上に反映したいと考えております。なお、スマイル工房内の地域交流スペースを活用した販売・交流等も本年4月開始を目途に準備を進めたいと考えております。

その他、指定特定相談事業所ゆい、羽村市障害者就労支援センター エール、資源回収事業などについても順調な事業運営に推移しております。これら各事業が順調に実施することができますのも、関係行政機関をはじめ市民の皆様、関係企業のご支援ご協力の賜であり深く感謝を申し上げます。

今年は、31年間続いた平成時代も本年4月末で終わりをつげ、5月1日からは新元号が始まるようです。新しい元号とともに、役職員一同、さらに地域福祉の充実・向上に心掛けたいと思っております。

おわりに皆様のご多幸とご発展を心からご祈念申し上げ新年のご挨拶とさせて頂きます。

社会福祉法人そよかぜ役員

理事長　野崎功市

副理事長　加藤照夫

理事　田村義明　田口尚子　井上克巳　堀内政樹

監事　羽村義男　石田茂

評議員　川津紘順　橋本唯隆　水上京子　橋本芳明　羽村富男　川村孝俊　下田忠男　栗原悦男　田村志津子

［特集］先輩の背中。

事業所ごとに特色を持たせながら障害のある方への支援が行われています。事業は継続していく必要があり、それを担っていくのは人でもあります。今回は、事業所で中核を担う方々に焦点をあて、次の世代に受け継ぎたい想いや仕事をしていく上で大切にしていること等に触れていきます。

根岸 徹

社会福祉法人そよかぜ
福祉作業所ひばり園 所長

―この仕事のやりがいについて

ひばり園に通所される方が、任された仕事に対して自信を持つことで、活き活きとした表情に変わっていく姿や、就職をめざしている利用している方が希望する会社に就職された時は我ことのように喜びを感じます。ご本人の就職の夢が叶ったことで親御さんの喜びや安心された顔が見られた時は、この仕事の重要性を感じます。就職後も前向きに取り組む姿をみたり企業の方より会社になくてはならない存在という言葉をいただいたりする時は、ご本人の意向に寄り添い支援をしてきてよかったと感じます。

―先輩たちから学んだこと

ひばり園の沿革を知る方々から話を聴く中で、今のような法律や制度が整う以前から当事者やそのご家族と一緒に築き上げてきたものだと知りました。その想いを受け継いだ者の一人としてその重さを感じます。ひばり園を築いてきた方々のように、利用者との信頼関係から見守られている安心感を与えられるような支援者になりたいと思います。

―後輩たちに伝えたいこと

何らかの〝生きづらさ〟を抱えている障害者にとっては特に、理解者がいること、安心できる居場所があることはとても大切なことだと思います。そのためによき理解者になること、社会の中に居場所を作ることが私たちの使命だと思います。

日本にも様々な福祉制度があり、その枠組みの中で私たちは仕事をしなければなりません。その中で福祉とは、障害とは、支援とは、その考え方や見方はこれまでにも多様に変化し、今後も変化し続けていきます。ただし、変わらないのは目の前にいる〝生きにくさ〟を抱えた方々です。法律や制度に当てはまらないから支援できないと考えるのではなく、法律や制度を上手に使いこなして目の前で困っている方を支援する、そんな支援者になってもらいたいと思っています。

―未来像

私個人で出来ることは微力ですが、ひばり園に関わる方方の気持ちがひとつに向かえば地域で生きていく環境はより良いものになるのではないかと思います。利用者だけでなく職員にとっても、ひばり園で働いていることを誇らしく思える職場を作っていきたいと思います。

社会福祉法人そよかぜ
東京都羽村市栄町3−3−1　☎042−555−5512

根岸 徹　現在の福祉作業所ひばり園が、まだ小規模作業所だった平成17年に支援員として入職。平成21年、制度移行に伴い新規事業として就労移行支援事業の立ち上げ、主任支援員として事業運営、利用者支援を行う傍ら、相談支援専門員も兼務。その後、平成30年4月、福祉作業所ひばり園の管理者に就任。ひばり園内の各事業（就労移行支援、就労定着支援、就労継続支援B型）の事業運営、管理業務を担う。

村井未帆

羽村市社会福祉協議会
総務課地域福祉係 主査

―この仕事のやりがいについて

人と関わることが好き。自分が関わったことで、その人の役に立てた、喜んでもらえたというときに、この仕事へのやりがいや自分の存在意義を感じます。同時に仕事を続ける意欲や動機にも繋がっています。また、相手に投げかけたことが、何かしらの「反応」で返ってくることが楽しい。その反応に応え、支援の幅を拡げることで本人の成

功体験を積み重ねることもやりがいと喜びになっています。

―先輩たちから学んだこと

小規模作業所やその後の就労支援施設で勤務していたころ、毎日関わる利用者は同じだが、様子を観察し小さな変化を見つける視点を持っていた先輩たち。そこから学んだ視点は在宅福祉サービスに携わるようになってからニーズを発見する力につながっていると思う。業務を通して抱く不安なども相談にのってくれ、励まされたことは今でも心に息づいています。

―後輩たちに伝えたいこと

一つの相談から新たなニーズが発見されることもあります。そのサービスを手配すればそのニーズが充足できるのか、それとも違う方法があるのか、視点や発想の幅は大切なことです。また、担っている事業内で充足できないニーズが発生した場合、そこで手放すのではなく、対応できるサービスがあるのか模索するのも大切な役目。

失敗から学び、成功体験を積み重ね、小さな成長でもいい、それを感じながら仕事を楽しんでほしい。人間相手の福祉職には結果や成果がわかりにくいかも知れない。小さくてもいいから喜びや、自分なりの楽しみを見つけてほしい。それがきっとやりがいにもつながると思います。

―未来像

今後10年の目標は後輩の育成。勝手には育たない、限られた時間の中でどれだけ手をかけ育てられるか、自らも実務をこなす中でも注力したいと考えています。

羽村市社会福祉協議会
東京都羽村市栄町2−18−1　☎042−554−0304

村井未帆　羽村市社会福祉協議会（以下羽村社協）の前身である小規模作業所勤務を経て羽村社協内にある障害者就労支援施設に配属。その後、出産育児を経て現職の総務課地域福祉係に就き、在宅福祉サービス事業に従事。利用者宅への訪問や相談支援業務を行う中で培った知識や経験を活かし、現在は地域福祉権利擁護事業を担っている。地域福祉権利擁護事業は、認知症や知的・精神障害などのため、判断能力が不十分な方に対して、本人との契約により福祉サービスの利用援助や日常生活に必要な金銭管理などの支援を行っている。平成29年10月からは、成年後見制度利用支援機関を立ち上げ、成年後見制度の相談や申立方法の案内、専門機関の紹介も行っている。

青木岳彦

羽村市社会福祉協議会 地域活動支援センターⅠ型あおば 相談支援係 係長

―この仕事のやりがいについて

「青木さん、ありがとう」と言ってもらえる時に、福祉職のやりがいや喜びを感じます。それは福祉職を志したときから変わらないことです。

―先輩たちから学んだこと

以前病院で専門職として勤務していた経験を持つ上司の方の下で仕事をしていた際、仕事に取り組む姿勢や利用者への対応など様々な場面で多大な影響を受けました。その姿は福祉職としての今の土台になっています。また、入職以前からの友人が羽村社協内の違う係におり、共に助け合いながら成長してこられたこと、現在でもよき相談相手であり、その存在はとても心強いです。もう一つ大きいのが、これまで仕事で会った「すごいなぁ」と思う人たちの影響です。そうしたこれまでの出会いや経験が積み重なり、現在の自分を形作っているのだと思います。

―後輩たちに伝えたいこと

社会福祉士や精神保健福祉士の資格を取得する際に得た知識は、現在の相談業務を行う中で索引のようになって、日々私を助けてくれています。福祉職を担う上で個々人の専門性の向上は必要なことですし、そこから得られる知識や考え方によって支援方法や思考の幅も拡がると思います。また、人と関わり、繋がりを大切にする福祉職である以上、職場だけに留まらず、趣味や好きなことなどを通じて出会う人の影響もきっと大きいです。私自身が外のつながりの先輩や仲間の存在にとても助けられているので、様々な人との関わりと、人から学ぶ姿勢を大切にしてほしいと思います。

―未来像

一人の福祉職としてまだまだ成長したい気持ちはもちろんありますが、担当の名前が〝青木〟から変わってもこの事業が継続できるよう、5年後10年後を見据えた人材の育成に取り組んでいきたいです。自分が以前の上司や、たくさん

の人との関わりから学ばせてもらったように、私から使える部分があれば使ってもらいたいし、反面教師にしてもらっても構わないです。そして福祉職として私が感じている仕事のやりがいを、何とか後任にもつないでいきたいと思います。

社会福祉法人羽村市社会福祉協議会
東京都羽村市栄町2−18−1　☎042−554−0304

青木岳彦　羽村市社会福祉協議会（以下羽村社協）の前身である小規模作業所勤務を経て羽村社協内にある障害児の通所施設に配属。その事業立ち上げから事業安定までの数年間携わった後、地域活動支援センターにて障害のある方の機能訓練や創作活動などの業務に就く。その後、相談支援業務が追加され現職に就く。地域活動支援センターI型あおばにて相談支援業務を担い、福祉サービス利用時に必要なサービス等利用計画の作成の他、障害のある方の機能訓練や様々な創作的活動を通じ、健康の維持と生活の質の向上を目的とした支援を行う地域活動支援センター事業、障害のある子どもを対象に、遊びを通じて基本的生活習慣や社会性を身につけるための支援を行う障害児日中一時支援事業の運営にも携わる。

吉本英利

NPO法人羽村市手をつなぐ親の会 ケアホームかりん 管理者

―この仕事のやりがいについて

共同生活援助という自立に向けた支援を通して、日常生活の中でできなかったことができるようになったとき、その利用者の潜在能力に触れた瞬間、それを引き出せたときは喜びとやりがいを感じます。例えば、洗濯物が乾きやすいようハンガーにかけることを一緒に行い、ご本人ができるようになったと見せに来られた時は実に嬉しいものです。お互いに喜びあうことは、信頼関係を築く上でも重要であり、次の支援にもつながります。また、どうしたら改善できるかなど、支援方法を模索し、利用者の成長や自立につなげることには、やりがいにも繋がっています。

―先輩たちから学んだこと

関わる人すべてが自分の先輩であると考えています。地域の関係機関の支援者たちが持つ利用者への想いや専門的な視点など学ぶことがとても多くあります。また、以前勤めていた会社でお世話になった上司の方から職場の内外において人を思いやり育てることの大切さを学びました。とにかくよく働き、よく遊べと教えられたことは今でも心に残っていて、後輩にもよく言っていることです。

―後輩たちに伝えたいこと

様々な出来事に疑問を持ち、改善提案をすること。日常的な何気ない会話でもいい、できるだけ利用者と触れ合う時間を持ち、表情や仕草を見て日々の小さな変化にも気付けるようにすること。そうした日常的な関わりを通して、利用者と信頼関係を築いてほしい。それができなければ支援者としてのスタートラインにすら立てないのではないかと思います。

―未来像

いつまでも利用者と触れ合う時間を持ち続けたいです。現場にいないと気付けないこと、わからないことはたくさんあります。また、わからないことは自分でも調べますが、恥ずかしがらず専門知識を有している人に聞くようにしています。人に聞くことを意識していたら、人の声も聞けるようになり、その過程は自分の成長にもつながっていると実感しています。

自立に向け日常生活をこなすための能力だけではなく、趣味や好きなことを楽しめるような生きがいのある場所にしていきたい。自分の家と思って暮らせるよう家庭的な雰囲気を大事にして「羽村でグループホームといえば、かりんだね」と選ばれるよう人材の育成にも力を注いでいきたい。

NPO法人羽村市手をつなぐ親の会 ケアホームかりん
東京都羽村市緑が丘2−1−16　☎042−578−9281

吉本英利　平成23年に世話人として入職。入職後、グループホーム内での利用者支援業務にあたる。数年後、現職である管理者に就任。「安心して暮らせる第二の家」を目標に、障害者総合支援法における共同生活援助事業の管理職として様々な業務の傍ら、世話人としても積極的に利用者支援に携わっている。

地域交流スペースについて。

河村 茂=文
福祉作業所スマイル工房 所長

上左 地域交流スペース外観。**上右** 地域交流スペース内観。**下左** フレンチプレスやペーパードリップ、アイスやホットなど、抽出器や温度による味の違いを体験。**下右** 数種類のコーヒー豆を使い、コーヒーとお菓子の相性（フードペアリング）を体験。

スマイル工房では、次のステップとして4月に喫茶スペースのオープンに向けて準備に取り組んでいます。喫茶スペースは、新たな取り組みではありますが地域の方々がくつろぎながら利用者の方と交流を築いていただけることを目的としています。

昨年10月に開所をしてから利用者・職員ともに新しい環境に慣れることが当初の課題でもありました。利用者の方々も少しずつですが新しい環境に慣れてきており、新施設で新しい年を迎えることが出来ました。開所をしてから地域の方々からも喫茶スペースの開店についてお問い合わせをいただいており、多くの皆様がご期待をよせられていることを肌身に感じております。

これまでパンやクッキーの製造販売を利用者の方々と一緒に取り組んでまいりました。喫茶に関しては、昨年から喫茶経験のある職員を中心にコーヒーの基本や淹れ方などについて定期的に勉強会を行っています。勉強会では、コーヒーの淹れ方によって風味の違いなど体験を通して学ぶことが出来、コーヒーの奥深さを感じています。加えて、お客様に満足して頂けるよう喫茶メニューの内容や提供の仕方など課題は山積しておりますが、お客様が「また行きたい」と思って頂けるお店づくりを目標に試行錯誤しながら研究を重ねているところです。

暖かくなり、桜が咲くころに羽村大橋の多摩川沿いでお散歩などいかがでしょうか。スマイル工房の喫茶スペースでくつろいでいただけるお店になるよう皆様のご期待を原動力として準備に取り組みたいと思います。4月に喫茶スペースで皆様と素敵な出会いとなるよう利用者・職員一同心よりお待ちしております。

新型のバンが納車されました！

この度、リサイクルショップくれよんでは「2018年度 年賀寄附金配分事業」の助成により新型のバン車両を導入することができました。

新しい車両は、乗車定員も増え、シートアレンジをすることで荷室も大きくなったことから提供品の引き取りなどでとても扱いやすい車両となりました。

加えて、「リサイクルショップくれよん」について、多くの方に知っていただけるようお店の名前を車両側面（写真）に入れさせていただきました。是非ともお店にお立ち寄りの際にはご覧いただければと思います。

本車両は、リサイクルショップ事業をはじめ、利用者の行事等の諸活動で大切に使わせていただきたいと思います。誠にありがとうございました。

コラム「福祉の時をつかむ」

みんなで納車された車を囲んで記念撮影。

そよかぜホームページ https://soyokaze-hamura.com

各事業所からのお知らせ

福祉作業所ひばり園

平成最後の新年会は、新町御岳神社で初詣、みんな大好きすたみな太郎で思いっきり食べ、ひばり園に戻ってからは豪華景品付きのビンゴ大会を行うという充実した新年会でした。参加人数は91名！ひばり園も大所帯になりました。今年一年もひばり園が発展し一人ひとりが活躍できる一年になれるよう頑張ります。

昨年も羽村市主催の「花いっぱい運動」に参加し、街路樹付近の草むしり、花植えを行いました。今年もきれいな街作りに貢献できるよう職員・利用者共々努めてまいります。

リサイクルショップくれよん

あけましておめでとうございます。昨年は新しい利用者さんが3名増え、一層にぎやかになったくれよんです。これから季節の進行とともに、店内にも春物商品が増えていきます。今年も〝思わず行きたくなるようなお店〟を目指し、スタッフ・利用者一同、皆様のご来店を心よりお待ちしております。併せて、ご提供品もお待ちしております（ご提供いただける品物についてはホームページまたはスタッフまでお問い合わせください）。

福祉作業所スマイル工房

羽村市コミュニティーセンターの調理室にて今年度二回目の調理実習を行いました。一人暮らしでもできるだけ簡単に作れてバランスよく栄養が摂れる献立を心がけ、今回は「ドライカレー、コンソメスープ、サラダ、デザート（果物）」にしました。少人数のグループごとに調理をしますが、各グループで一品ではなく、一人一人ができるだけ多くの品目を作れるよう、各グループで献立全品を作ります。見た目や味はグループによって少しずつ違ったようですが、食後は皆達成感と満腹感で満足気な表情でした。

障害者就労支援センター エール

エールは、社会福祉法人そよかぜが羽村市の区市町村障害者就労支援事業の委託を受け、平成20年9月に開設した就労支援センターです。羽村市在住の障害のある方で、一般企業等への就職を希望されている方やすでに働いている方を対象に、就労に関するご相談や支援を行なっています。

利用時間：月曜～金曜日、午前9時～午後5時。各月の第一土曜日は開所。

※ご相談は予約をお願い致します。

資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。さて今号の特集では、私が福祉職としても人生の先輩としても、とても尊敬する方たちをご紹介しました。取材をする中で、仕事や関わる人への想い、目頭が熱くなるような熱意のある言葉を、いかに温度を下げずに記事にするか、四苦八苦したところでした。そして、この先輩たちが私の近くにいて、その背中を追い続けられることが何よりも嬉しく、向上心を持ち続けられるモチベーションにもなっています。

各事業所の連絡先

社会福祉法人そよかぜ事務局	☎042-578-0855
福祉作業所ひばり園	☎042-555-5512
福祉作業所スマイル工房	☎042-578-2723
リサイクルショップくれよん	☎042-578-2575
羽村市障害者就労支援センター エール	☎042-570-1233
指定特定相談支援事業所ゆい	☎042-555-5512